

Eスクラップ

台湾14年発生6万トン

工業技術研究院 葉経理が見解

【台湾・台北】服部友裕「台湾の工業技術研究院・産業経済興趨勢研究センターの葉仰哲経理は、15日に台北市内で開催された「台日資源循環技術交流シ

ンポジウム」の中で、台湾における電子製造産業から発生する電子基板などを中心とした廃棄物(Eスクラップ)の2014年の発生数量は約6万トンであった

ことを明らかにした。また、同年の電子製造産業から発生する事業廃棄物の総量は100万トン弱との認識を示した。

台湾は電気電子機器および部品産業の一大集積地で、関連する世界的な企業が数多くある。実際、台湾の半導体(IC)産業の世界シェアは約20%、電気基板(PCB)産業は

約35%、液晶産業は35%に達している。世界のEスクラップの発生数量について葉経理は増加傾向にあると語る。14年の510万トンから、25年にはほぼ倍増の9900万

トンまで拡大することが予測されている。特に中国では、大幅な増加が指摘されていると語った。



葉経理

いる。1トンの廃電子基板に含まれる主な有価金属の数量は銅が130キログラム、錫が19キログラム、金が16グラムとみられる。ただ、価格高騰などで素材変更が進み、廃電子基板に含まれる金の含有量は減少傾向にあるとの見解を語った。

台湾の電子製造産業から排出される事業廃棄物はここ数年、各産業の拡大に伴い増加傾向にあると述べた。実際、14年の廃棄物発生数量は半導体関連で09

年比約38%増の21万763トン、液晶関連で同約46%増の10万1045トン、電子基板関連で同約92%増の43万6561トンに拡大しているとの数字を示した。

台湾におけるEスクラップのリサイクルについては、マテリアルフローの上流部分におけるリサイクルの拡大を訴える。特に製造工程内でのリサイクル拡充が必要との認識を語り、そのためにはコスト面での問題解決が必

要と強調した。工業技術研究院は台湾政府經濟部直轄の産業技術の研究開発機関。約60000人の研究スタッフを有し、約13000人が博士号を保有する。保有特許件数は2万2000件強で、台湾政府の政策に対し、諮問やアドバイスをを行っている。同研究院からは台湾を代表する企業がいくつも設立されており、台湾における工業技術の中核

を担う。

を担う。

を担う。

を担う。